

## JICA地域別研修 中西部アフリカ幼児教育 シラバス

目標 ECD(乳幼児開発)の普及に向けた制度・政策面の基本的整備法や関係機関との連携について見識を深める。

目標 幼児教育現場での実践を参観することにより、多角的な視野からその理念や方法について検討する。

目標 子ども理解に不可欠な一般的/専門的知識を学習し、現場で必要とされる技術の習得をはかる。

目標 日本での研修を自国の幼児教育に活用・反映・普及させる

### 研修日程表

日付	曜日	研修項目	研修内容	研修のねらい	担当	場所
9月19日	火	AM 来日				
20	水	AM プリーフィング PM プログラムオリエンテーション			JICA	
21	木	AM 開講式 レセプション				
		PM 講義1 日本の幼児教育概要	「日本の幼児教育概要」目標1	日本の幼児教育政策と内容を概観し、その歴史的発展の経緯、特徴、現状と課題について紹介する。特に、日本のECDに関するマルチセクトラルな取り組みについての基本的理解を促し、本邦研修の導入とする。	浜野隆 お茶の水女子大学 文教育学部 助教授	お茶大
22	金	AM 視察1 お茶大附属幼稚園・ナーサリー	「日本の幼児教育の理念と方法」 「日本の乳児保育の理念と方法」 目標2	予備知識や先入観のない「白紙」の状態で、日本の幼児教育と実践を体感する。自国の取り組みとの共通点や相違点を見つけ、新鮮な驚きや疑問の芽を大切にしながら、研修への期待と課題をふくらませる。	松井とし お茶の水女子大学附属 幼稚園 副 園長	お茶大
		PM 講義2 「ECDに関する国際協力の動向」	「ECDに関する国際協力の動向」 目標1・4	ECD(Early Childhood Development)の普及がもたらす効果と意義について認識を深める。サハラ以南地域のECDの現状と課題を整理し、国際協力機関による同地域への支援動向や実施アプローチを、現地の当事者の視点から検討する。	三輪千明 浜松学院大学 短期大学 専任講師	お茶大
23	土					
24	日					
25	月	AM インセプションレポート発表	「研修の目的と課題の明確化」 目標4	自国の政府あるいは所属組織内での課題の整理、本邦研修後に改善したい課題の報告を行う。		
		PM //				
26	火	AM 視察2 小学校	「日本の初等教育の理念と方法、 幼小連携」目標2	ナーサリー・幼稚園・小学校と連続して視察することによって、0歳から12歳までの子どもの発達の段階的・包括的な理解を促す。さらに、初等教育の理念と実践を学習し、幼児教育の意義と幼児教育から初等教育への円滑な移行について認識を新たにす。		お茶大
		PM 視察3 幼稚園・ナーサリー	「日本の幼児教育の理念と方法」 「日本の乳児保育の理念と方法」 目標1・2	幼稚園・ナーサリーを再訪問し、各自の印象や感想を研修仲間や教官と交換し討議する。		

27	水	AM	視察4 大和郷幼稚園	「幼児教育の目標と計画」 目標2	幼児教育の目標と計画の必要性を認識し、どのような内容の構成がふさわしいか、現場の創意工夫から直接かつ具体的に学習する。	向山陽子 大和郷幼稚園 園長	大和郷幼稚園
		PM	ワークショップ1 (指導案・教材作成・子どもの評価など )	ワークショップ「指導案と教材の作成、子どもの評価」 目標3	実際に指導案や教材・玩具を作成し、環境構成や遊びによる総合的な指導の重要性について習得する。		
28	木	AM	講義3 日本の幼児教育行政	「日本の幼児教育行政」目標1.4	日本の幼児教育政策・制度、財政、組織運営、人材育成について、政府関係者から説明を受け、帰国後のアクションプランの作成に活用する。	神長美津子 東京成徳大学 助教授	お茶大
		PM	講義4 幼児教育の方法(1)子どもの発達段階の理解	「幼児教育の方法 (1)子どもの発達段階の理解」 目標3	子ども理解の基盤となる発達心理学を最新の知見から学習する。乳幼児の最善の全人的発達(身体・認知・情緒・社会性)を促す幼児教育の方法について学習する。	内田伸子 お茶の水女子大学 副学長	お茶大
29	金	AM	講義5 幼児教育の方法(2)子ども中心の生活の展開	「幼児教育の方法 (2)子ども中心の生活の展開」 目標3	日本に特徴的な子ども中心の幼児教育とは、どのような子ども観を基盤としているか紹介し、多様な子ども理解への新たな可能性を啓く。また、子どもの主体性を尊重した生活を展開していく場合の、幼稚園教諭・保育士の役割について検討する。	浜口順子 お茶の水女子大学生生活科学部発達臨床学講座 助教授	お茶大
		PM	講義6 日本の保育行政	「日本の保育行政」 目標1.4	日本の保育政策・制度、財政、組織運営、人材育成について説明を受け、帰国後のアクションプランの作成に活用する。	菅原喜昭 日本保育協会 理事	お茶大
30	土						
10月1日	日						
2月		AM	講義7 小児保健 母子衛生	「小児保健 母子衛生」 目標3	幼児期の身体発育、生理機能、運動機能の発達に関する基礎的理解を促す。中西部アフリカ地域に一般的な疾患の予防法、処置法について学習する。幼稚園における衛生管理・健康対策の要点を確認する。	榎原洋一 お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター 教授	お茶大
		PM	視察5 千代田区いずみ子ども園	「幼保一元化の理念と実践」 目標1.4	ECDの普及において、乳児保育と幼児教育の総合的アプローチの重要性が指摘されている。日本で近年進められてきている、幼保一元化の取り組みを紹介し、その意義と課題について学習する。	藤原和子 千代田区いずみ子ども園	秋葉原

3	火	AM	視察6 白梅学園大学	「幼児教育専門家の育成」 目標1	幼稚園教諭・保育士の育成に確かな理念と実績を持つ白梅大学を訪問し、実際の授業風景を参観、さらにカリキュラムや教材、評価システムについて学習する。	無籾隆 白梅学園大学 学長	
		PM	白梅大附属幼稚園・保育所	「日本の幼児教育の理念と方法」 「日本の乳児保育の理念と方法」 目標2.3	これまで視察してきた幼稚園・保育所と比較しながら、日本の幼児教育から何が吸収できるか、研修の成果の確認作業に入る。	金田利子 白梅学園大学附属幼稚園 園長	白梅学園大
4	水	AM	講義9 日本の幼児教育の歴史、保育原理	「日本の幼児教育の歴史と保育原理」 目標1.3	日本の幼児教育130年の歴史をふりかえり、その成功の要因と今なお克服しがたい課題を紹介する。日本の幼児教育の本質は何か、幼稚園教諭・保育士の専門性は何か、その資質や任務について考察を深める	大戸美也子 お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター 教授	お茶大
		PM	講義10 幼児教育の国際比較	「幼児教育の国際比較」 目標1.2.3.4	中西部アフリカの幼児教育はフランスの影響を多く受けてる。これまでの学習をふりかえり、自国またはフランスと日本を比較し、どのような点に共感や理解を得たか、どのような点に疑問や違和感を覚えたか、討論を行い、日本で得た知識と経験の成果を明確にする。	星美和子 十文字学園大学 教授	
5	木	AM	視察7 子育て支援センター「ぴっぴ」	「地域・家庭の支援 両親の教育」 目標1.4	ECDの普及には、両親の理解や家庭・地域の協力が不可欠である。両親や家庭の支持を得るにはどのような働きかけが必要か、地域に生きる人々の教育力や資源(自然環境、物理的条件、知的財産)をどう生かすか、日本の子育て支援から学ぶ。	小川清美 東横学園大学 教授	東横学園女子短大
		PM	ワークショップ2 「地域・家庭の支援 両親の教育」				
6	金	AM	インテリムレポート準備				
		PM					
7	土		視察8 子どもの城・冒険遊び場	「子どもの遊びの世界と表現」 目標2.3	1979年の国際児童年を機に立案され、1985年に国立の大型児童館として開設された「子どもの城」を訪問し、子どもの遊びや健康、情操の発達を保障する児童福祉の取り組みを学習する。身体運動、音楽リズム、造形など表現活動に参加する。	佐野真一 子どもの城 企画研修部 課長	青山
8	日						
9	月		休日				
10	火	AM	インテリムレポート発表	「研修成果の整理と帰国後の行動計画の準備」 目標4	来日前に整理した改善項目および本邦研修を通じて新たに発見した課題を整理し、帰国後の行動計画策定につなげる	JICA	

		PM	〃		夜の行動計画策定に努める		
11	水	AM	総括・今後のプログラムについて			JICA	
		PM	評価会・閉講式				
12	木		帰国				